

子どもから大人、若者から高齢者に至るまでのすべての人の文化を

# 文化高知

2012年1月 NO.165

[もくじ]

- 2~3 高知を離れて三十八年…広田昭二
- 4~5 B級ご当地グルメの祭典! B-1グランプリin姫路  
須崎名物「鍋焼きラーメン」プロジェクトXの挑戦! …松田健
- 6~7 世のため人のために人生を捧げた男・大野武夫  
〜付・坂本龍馬銅像建立事業〜…近藤直彦
- 8~9 高知はどんなに田舎でしょうか?…ジョシュア・デュラン-カールソン
- 10~11 言葉の現場から31 日本語は難しい②…広井護
- 12 鎮守の森は今 県内の神社めぐり体験記(一)…竹内荘市
- 13 高知市文化振興事業団10月~12月の事業から
- 14~15 風俗歳時記・風伯

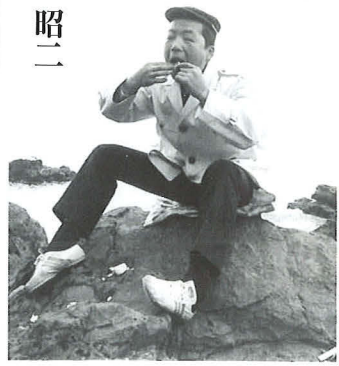
表紙デザイン:「夢中の奇跡」三田健一朗

(財)高知市文化振興事業団

# 高知を離れて

## 三十八年

広田 昭二



振り返って見ると、故郷で過ごした年月の、もう倍以上をこちらで過ごしたことになる。

私は、四人兄弟の次男ですが、中でも一番食意地が張っていた様に思います。実家は、あの頃の田舎では、ごく普通な感じかな？バナナが高級品で、もちろん今みたいにコンビニ、自動販売機がそこらじゅうに在る時代じゃなかった。肉なんて物は、普段がクジラ、時に卵を産まなくなつた鶏、秋から冬にかけては、ワナにかかった野鳥がたまに、正月が豚で牛なんて物はあまり記憶にない。チョコレートなんかは、誰かがお土産で持ってきてくれた時か、お年玉で買って食べるくらいだったかな。

家での食事も、なんか切り干し大根を煮たものとか、何時も同じような物で、要は飽きてたんでしょう、今じゃ無性に食べたくなる時があるんですけど、兎に角美味しい物に飢えてた様に思います。庭の柿が実る頃には、たとえば今日の夕方にチェックを入れ、次の朝にはどの兄弟よりも早起きして、食べ頃の物をゲットする。周りの山のアケビや野いちごの在り処、自然薯のいいのが取れる場所、あそここの栗は小粒だが甘い、でも落ちたが最後、絶対動物に先持っていられるから、頃合いをみて叩き落して採らなきゃダメとか、美味しい物データを結構持っていた。夏は川、秋・冬・春は山、それが

遊び場。そんな日常の中、ある夏休みに親戚の家に遊びに行つたとき、食べさせてもらった熟して冷えたプリンスメロン、ある時レストランで食べさせてもらったトンカツ、「美味しい！」今でもその感動のようなものを、よく覚えています。この様な環境と二品が、僕が料理人を目指した動機だつたと思つています。

なつてきました。そんな事を考え始めた時、ふと今までよりも故郷のこと、家族のことを考えるようになってきました。五十歳ぐらいまでは、料理人として、部門の長として、何かひたすら、がむしゃらに走ってきたような気がします。



勿論、死ぬまで料理人でありたいが、すこしスタンスを変えねばと感じています。

昨年、県の観光特使にさせていただき、この夏は尾崎知事ともお話をする機会があり、より高知の為に何か等と考える時があります。

ら、何かの事で、何時もと違うパス停で待っていた時、ふと斜め向かいのレストランの看板が目に残り、「このコックさんに相談してみよう」と思い、迷惑も考えず「こんにちは」って入って行き、「実は僕コックさんになりたいんですけど、どうゆう風に修行したいのか教えて下さい」って聞いたホテルオーケラに入社できることになりました。

その時から料理人人生をスタートした訳ですが、スタートから今日まで、ことある転機にすばらしい人達との出会いがありました。私が、社会に出た頃は、今みたいに多種多様な職種がある時代ではなく、一つの会社に入れば、定年まで勤め上げるのが普通だった様に思います。せっかく紹介で入れた会社を、四年と九カ月でやめました。先輩がレストランを開くので、「手伝ってくれ」と、なんせ一日でも早くいろんな料理が作れるようになりたかった。その後、



ひろた しょうじ

一九五五年、四十町生まれ  
窪川高校卒業後上京し、一九七三年ホテルオークラに入社。ホテルメトロポリタン等を経て、一九八六年ホテル西洋銀座に入社。二〇〇一年からホテル西洋銀座 総料理長。



# B級ご当地グルメの祭典！ BーIグランプリin姫路 須崎名物「鍋焼きラーメン」 プロジェクトXの挑戦！

松田 健

みなさん「鍋焼きラーメン」ってご存知でしょうか？高知県の県都、高知市から西に約三十km、港町である須崎市中町の路地裏通りに、戦後まもなく営業を始めた谷口食堂がありました。その店主・谷口兵馬（たぐち ひょうま）さんは、中華そばが冷めないようにと、ホーロー鍋で熱々にした中華そば（愛称・なべちゅう）をお客様に提供して、いました。谷口食堂は、昭和五十五年に閉店しましたが、当時通い詰めていたファンには「幻の味」「伝説の名店」として、今もお語り継がれています。この谷口食堂の鍋焼き中華そばが、半世紀を過ぎた今もそのまんまの提供スタイルで残り、須崎市内の食堂・喫茶店だけでなく、お好み焼き屋・焼肉屋など意表をつくような店舗で提供されている食文化、これが須崎名物「鍋焼きラーメン」です。

須崎市民に愛され続けている「鍋焼きラーメン」をトップバッターにした、まちおこしの挑戦をご紹介します。

きっかけは、平成十四年秋に予定されていた高知自動車道の伊野ICから須崎東ICまでの延伸です。よさこい高知国体も平成十四年秋に開催される、これはチャンスだと思い須崎を元気にするプロジェクトを「何かやってみよう」と高知自動車道延伸の秋に照準を合わせた「鍋焼きラーメンの街創造プロジェクト」という企画書を作り、有志らにまちおこしをやらうと声を掛け十二人のメンバーが揃いました。

ただ、高速道路が来るのでチャンスだと言っているが、それはあまりにも単純。須崎に魅力がなければ、次の瞬間には単なる通過点に過ぎなくなる。チャンスと言うよりもピン

チが目前に来ていると言ったほうがいいのかもしれない。一言で「須崎を元気にする」と言っても太平洋で鯨を探すようなもので、簡単ではありません。プロジェクトメンバーは、何か羅針盤になるものが必要だと感じ「経済効果も生み楽しい活動する」ことを通じて「働ける須崎のまちをつくる」ことをまちおこし活動の定義にしました。

かつてなく人口が減少している須崎市ですが、自分たちが生きがいのある仕事ができ楽しく生活のできるまちを子供や孫たちにも残したい、しっかりと次の世代にバトンを渡せる須崎のまちを創りたいとのメンバーの思いからです。

このプロジェクトの目的は、「鍋焼きラーメン」によって須崎市に集客力と回遊性を持たせ、まちが元気を取り戻すことで、市民に郷土への誇りや愛着を持たせることとしました。そして、中長期目標は三つ掲げました。（企画書より抜粋）

①観光客三十万人の街の創生（交流人口の増大が目標）

須崎市で一番観光客の訪れる須崎市の道の駅のレジ客数は、年間六十万弱が通過している。この「鍋焼きラーメン」で須崎市の認知度を高め話題性をつくり、交流人口を増やすことで商店街等への導線ができ経済波及効果にも繋げる役割ができる。

②「鍋焼きラーメン」年間売上額三億円、経済波及効果三十億円の達成（経済効果の目標）

これは、かなり大きな数字を掲げました。商店の売上を上げることが先決でしたし地方経済を元気にするには、やっぱり儲けないと街人も元気がありません。まちおこしの目標は、数値で表せないものが多いですが、数値目標を明確にすることで士気も高くなります。

③新横浜ラーメン博物館（横浜）、ラーメンスタジアム（福岡市）へ出店（情報発信の目標）

「まずは知ってもらおうこと。知られないことは存在しないと」とよく言われます。野球に例えれば、トップバッターの「鍋焼きラーメン」が首都圏に出店する話題により、全国に「須崎」ブランドが発信できます。これに続くバッターとして、新鮮な魚、甘い果物、美味しい野菜へと連鎖する仕組みづくり。点ではなくしっかりと繋がる地域力として、首都圏でのアンテナショップをつくり優位に地域情報を発信し地域産品を販売する。

このプロジェクトメンバーは、須崎青年会議所OBや須崎商工会議所青年部などでまちづくり活動をしてきた先輩やまちおこしに志ある事業経営者・行政関係者らで平成十四年一月十日、産官民十二名のメンバー

（初代リーダーは徳久酒店の徳久和宏氏、現在は矢野米穀店の矢野明広氏）で須崎名物「鍋焼きラーメン」プロジェクトX（通称・鍋プロ）を設立し活動を開始しました。勝手連的なまちおこし団体の活動開始から十年が経ちましたが、これほどの反響や経済波及効果に繋がるプロジェクトになるとは思いませんでした。

鍋焼きラーメン提供店や鍋プロメンバー、行政・商議所関係者のがんばりはもちろんですが、一番の立役者は高知新聞社須崎支局の竹内一支部長（平成十三年～十四年当時）です。毎月開催する会議にもオプザーパーとして参加し、メンバー以上に熱く積極的に議論や事業提案をし、活動や取組みがあるたびに高知新聞に掲載してくれました。

竹内一支部長による情報発信の陰もあって、やなせたかし先生、ラーメン店「支那そばや」創業者の佐野実氏や新横浜ラーメン博物館スタッフ、高知県橋本大二郎前知事、故高円宮様、須崎高校美術部の生徒さん、デザイナーの田上泰昭さん等数々の協力者や応援団が現れ、楽しくプロジェクト活動ができ提供店では売上額も伸び、従業員が増える店・店舗改装する店など経済波及効果も表れてきました。

一番印象深かったのは、高速道路開通の平成十四年九月、鍋プロメン

バーや友人から私の携帯電話に「鍋焼きラーメンのお客さんで須崎のまちがおおごとなつちゅう」「○○○店が行列になつちゅう」「○○○店が凄いでいっばいで」という連絡が続々と入り、見に行くと、本当にどの提供店も長蛇の列ができ、こんな光景が須崎のまちにできるのかと感動し、涙が出るほど嬉しかったことを記憶しています。

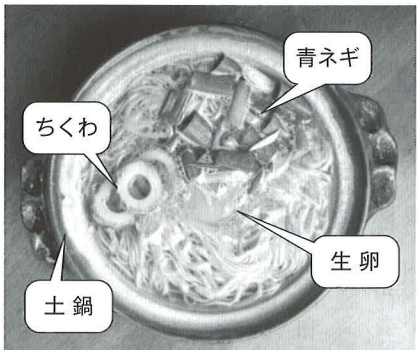
その後、高速道路開通ブームで「鍋焼きラーメン」の地域おこしも一過性のもので衰えるかと思えば、繁盛店と一般店との格差はできながらも年々来訪者は増え続けています。提供店は、活動を始めた平成十三年頃約二十店舗だったのが平成十四年頃に四十五店舗になり現在は約三十五店舗になっています。来訪者は、須崎市内提供店全体で見ると現在でも伸び続けています。

二〇一一年五月、(社)B級ご当地グルメでまちおこし団体連絡協議会（愛称・愛Bリーグ）の正会員昇格となり、B級ご当地グルメの祭典（通称・BーIグランプリ）へ四国から初出場することになり、メンバーらで祝杯をあげました。喜びもつかの間、開催まで六カ月足らずしかない。協力スタッフの募集や土鍋や調理機器の増強もしないと出展できない。三月十一日の大震災の影響で景気減退や社会不安も募り、出展準備等もスムーズにできる環境ではな

かったです。

まちおこしの全国大会として、化物イベントになった「BーIグランプリ」。今年も兵庫県姫路市で十一月十二日・十三日（二日間）、五十一万五千人の来場者で姫路城周辺の会場を埋め尽くしました。マスコミ等の報道関係者は約百八十社とも伺っています。これだけのイベントに出展できたことは、鍋プロメンバーにとつて十年間活動してきたお披露目ステージとして最高の舞台でした。高校球児のあこがれる甲子園大会に例えると、地方都市の無名校が初出場するようなもので四国から初出場だということもありマスコミ各社の取材が多く、土鍋で熱々のまま提供する「鍋焼きラーメン」はちょっと異質な存在で、四万十ひのきで作った専用トレイに土鍋を乗せて食べるスタイルは来場者にも一目を置かれ、全国放送のテレビ番組等を通じて全国の方々にも「高知・須崎」を十分アピールできたと思います。

惜しくも入賞は逃したものの、須崎市民の代表として地域を揚げて出展でき、鍋プロメンバー全員が心を一つにし「須崎を売る」ことができた素晴らしい姫路大会に感謝と感動をしています。大会終了後、須崎に帰ってきて市民の皆さんと関係者らに「お疲れさん」「よう頑張ったね」「テレビ見たで」などの温かい言葉を数知れず頂き、「鍋焼きラ



鍋焼きラーメン必須アイテム！

メン」のまちおこしを十年間やってきて、何よりも意義深く感じました。このプロジェクトの基本理念は、須崎の路地裏で生まれて五十年間も変わらぬままで須崎市民に愛され続けてきた食文化「鍋焼きラーメン」を百年先の「元氣な須崎のまち」に残すことです。これからも「鍋焼きラーメン」以上に、熱い思いでまちおこし活動に挑戦し続けます。

感謝

まつだ たけし

一九六四年、須崎市生まれ  
須崎市観光協会事業部長。須崎名物「鍋焼きラーメン」プロジェクトXサプリーダー。

# 世のため人のために 人生を捧げた男・大野武夫

～付・坂本龍馬銅像建立事業～

近藤 直彦

大野武夫のことを人は皆「親分さん」と親しく呼んでいる。銀行の頭取さえも「親分さん」と呼ぶ



ソ中友好協会の招聘をうけ一九六二年度日ソ協会第三次訪ソ使節団の団員としてソ連訪問。

昭和四十三年七十歳、高知県地方労働委員会公益委員としてつくした功績により勲五等旭日双光章を受章。昭和四十六年七十三歳、胃癌のため七月二十四日未明病没す。以上、大野武夫が関わった事業や役員を勤めたことを紹介した。他にも数多く関わった事業や役職もあったが割愛した。

大野武夫が「親分さん」と呼ばれていたことは頭初に述べた。ある銀行の頭取を訪ね「頭取さんよ三、四ばあー借してくれんかよ」と頼めば、頭取は「親分さんよ三、

のは、それだけ信用・敬愛されていたからであろう。自分では「便利屋」「雑文書き屋」と自認していたが、スケールの大きな行動力と人間味豊かな人柄で、文教関係・福祉関係、その他多岐に及んで社会事業に関わり推進していた。そのため、人々はさすが親分さんと尊敬していた。武夫の名を特に有名にしたのは、全国からの寄付金で昭和三年五月二十七日桂浜に日本一大きい坂本龍馬の銅像を建立したことである。武夫の生い立ち、兄弟を追ってみよう。武夫は高知市江ノ口九十一番屋敷で、父治樹と母充との間に明治三十一年三月二十四日、長男として生まれる。弟は二男同、三男龍夫、四男伊勢夫（山崎）、五男五夫、六男兎喜夫、妹は長女まき、次女三枝の八人兄弟である。

三男龍夫を少し述べてみよう。戦後昭和二十二年、高知県文教協会理事長坂本重寿と高知新聞社栗尾結城社長との協議で、廃退している戦後の文化の復活は、まず活字文化の復活ではなからうか、との合意に到り双方の合資で全国でも珍しい製本部門を備えた(株)高知印刷が誕生した。その高知印刷に龍夫は、尊敬する坂本重寿を慕って昭和二十五年入社、龍夫は画家としての技術を駆使、造本の装丁で見事な腕を発揮、高知県出版文化賞の装丁賞を数回受賞、昭和三十九年には高知県文化賞を受賞している。

武夫の略歴を見ると武夫は頭のいい男で、明治四十二年十二月十五日十一歳で見習生として高知銀行に入社（成績優良で繰上卒業という）、安田系会社において未成年者の昇格の道を拓いた。大正七年二十歳、台湾彰化銀行に入社、支配人代理に昇進。大正十二年二十五歳で肺結核を病み日本に帰国、二年後に全快。大正十四年、(株)野村組（社長野村茂久馬）に入社、新聞部に勤務し朝日新聞の販路を拡大し紙数三千部を八千部に伸ばす力量を発揮する。昭和三年三十歳、五月二十七日坂本龍馬の銅像を建立、同日武夫は井関鮎子と結婚。昭和四年に長男一郎（泣き虫先生）、昭和六年長女みち代、昭和十一年次女耀子を受け継ぐ。

昭和十二年武夫三十九歳、入論がおこり、建立趣意書は大野武夫が起草、入交好保との二人が中心になり組織を組み龍馬の銅像を建立する計画である。銅像彫刻師の本山白雲ほか二名からは製作費の見積りを取り、事務所には寄付金の無課税扱いの申請をしておいた。

交好保（注）三十四歳の二人は中国に渡り、天津・伊太利租界に東洋公司を設立、自動車工業及び貿易、商事を経営。昭和十六年入交好保が河北交通(株)に出向、以後武夫が東洋公司を主宰する。

（注・入交好保は南国市田村で明治三十六年生まれ、平成八年九十歳で没、武夫とは馬の合う良き友であった。）

昭和二十二年四十九歳、社会福祉法人高知慈善協合理事長となり社会復帰の発展につくす。昭和二十四年、高知県文教協合理事、高知市民図書館運営委員。昭和二十五年、高知県社会福祉協議会理事、高知県地方労働委員会公益委員。

昭和二十七年五十四歳、同和事業推進懇談会委員、高知県友愛会会長となり同和事業発展につくす、高知市教育委員長となる。昭和二十九年、日中友好協会高知支部長となり日中文化交流等両国の親善につくす。昭和三十三年六十歳、全国私立保育連盟初代理事となり、私立保育園の経営難解消の政策を打ち出す。昭和三十六年、社会福祉法人の高知慈善協合理事、高知県救済委員会委員。昭和三十七年、

四ばあーとは言わずに、もつと多く四、五ばあー持っていったらどうですらう」と無担保で多額の金を借してくれた。その金を武夫はいったい何に使っただろうか？

「土佐女子学校」を建築する資金にし、また児童養護施設の「子供の家」を創るのに使った。さすが親分らしい大人ぶりであった。以上、述べてきたように大野武夫は「世のため人のために、人生を捧げてきた男」といっても過言でないとい高く評価できる。

さて、桂浜の坂本龍馬の銅像は、誰によってどのような方法で建立されたであろうか。昭和二年高知県青年の間に坂本龍馬銅像建立の

会長は事業王といわれた野村茂久馬を据え、学生青年児童一般人に入ってもらい組織を整えた。次に趣意書、振替用紙、封筒を印刷、そして全国に送付して寄付をお願いするのだから相手の氏名住所が要る。そこで全国の各新聞社が毎年発行する年鑑を買い、本の末尾に主たる人物の氏名、略歴、住所が掲載されており、それを利用した。

桂浜の日本一大きい立派な坂本龍馬の銅像は前述した組織の努力で建立された。銅像の高さ五・三m、重量二九七四kg、台座八・一m、銅像製作者本山白雲ほか二名により昭和三年五月二十七日建立除幕式が行われた。銅像建立総経費二万五千元（現代に換算すると八千万円）、内訳は銅像と台座が一万五千元、諸経費が一万円とな

## ◆参考著書

『無門塾大野武夫集』大野武夫集刊行会 昭和五十年十二月一日  
『高知印刷五十年のあゆみ』高知印刷発行平成九年六月一日

◆資料提供者  
桂浜「坂本龍馬記念館」学芸員の皆様  
芸西村「考える村」事務員の皆様

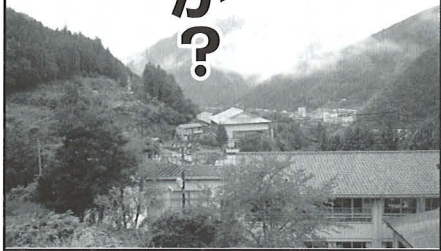
こんど、なおひこ

昭和九年 南国市十市に中田家の三男として生まれ  
明治大学卒業、昭和四十四年(株)高知印刷入社。昭和六十年近藤家へ養子に入る。

# 高知はどんなに

## 田舎でしよるか？

ジョシユア・デュラン・カールソン



日本で就職できるのを聞いた時、私はすごく喜んでいました。大学で日本語を勉強していましたが、一年間仙台に留学したので卒業したら日本で働こうと思っていました。その時、勤務地はまだ決まっていなかったのですが、比較的人が多いところがいいなと思っていました。人が少ないところであっても、電車などで都会まで行ける場所ならいいかなと考えていました。

そして勤務地を知った時、最初に考えたのは「高知県はどこだろう？」ということでした。インターネットでちよつと調べて、四

大川村はどんなところかな？ 高知県民の中でも知らない人が多く、いうまでもないですが行つたことがある人もあまりいません。高知市から車で二時間くらい高知県北部の嶺北地域の深くにあります。もっとも印象的なのは自然です。前に述べた通り、大川村はほとんど森林に覆われています。山村で、探検する気があつたら数えられないほどの絶景を見つかけられます。高知県では珍しくて、冬になると雪も降ることが多いです。初めてアパートのベランダから見た朝霧に覆われた山の景色に息をのみました。日本の古い風景画がどのようにして描いてあつたかが分かってきました。山の他に湖があるし、村の真ん中を吉野川が通り抜けます。

高知市であまり見られない動物も多いです。道端でのんびりしている野猿を見られるし、運がよかつたらイノシシとか鹿も見られます。野生動物以外に山に登つたら高知県の有名な黒牛とはちきん地鶏の牧場まで行けます。もちろん食べないといけないから食堂も

国の四つの県の一つと学びました。その時までは四国についてあまり分からなくて、四国まで行く気が全然ありませんでした。一つ分かつたことは東京の友達から聞いた「超田舎だ」ということでした。東京の人の目からはどこでも田舎っぽいから、その言葉をあまり気にしなくて高知県のどこで働くかの知らせを待ちました。

その日がやつと来て、高知県の田舎というところまで来て、大川村というところまで来て、大川村は日本の離島以外の市町村の中ではありません。人口が少ない村と分かりました。

あります。毎年文化の日に行われる謝肉祭に行つたら村民と一緒に酒を飲んだり肉を食べたりすることができそうです。



村民といえば、村の人の支援と親切がなかつたら大川村での生活はうまくいかなかつたと思えます。人口は五百人ぐらいいだけ、皆仲良くしています。離れている田舎の存在は皆分かつているから、問題とかあつたらすぐにアド

そのことを知つた後、心が沈みました。私はずっと比較的人が多い都会に住んでいたもので、そういうところでの生活ができるかどうか疑問を感じていました。もっと調べるよ、大川村の近くには電車などないし、スーパーもないと分かりました。

けつこう長い間心配していましたが、家族や友達と相談してとりあえず大川村まで行こうと決めました。日本で就職することは長い間の夢だったので、これをやってみないと後悔するかもしれない。楽しめなくても一年間はそんなに長い時間ではないと思いました。

高知に着いた日、学校の校長先生と英語の先生と教育委員会の人が空港まで出迎えてくれました。カツオのタタキを食べてから車に乗って、ずっと北へ進んでいきました。進めば進むほど家がなくなつてきて、ついに森林しかない山を登り始めました。長い時間、車の中にいる人以外、他の人は見ませんでした。サルを見て、文明から離れていると感じずにはい

バイスをくれました。大川村の小学校は生徒があまりいませんが、皆仲良しで、いい雰囲気です。大川村は積極的に「ふるさと体験」というプログラムのもとで留学生を募集しているので、大川村の子供が県外の子と友達を作りながら魅力を感じてもらうことができます。

私は今、高知市役所で勤務していますが、大川村に住んでいた三年間の思い出をいつまでも大切にしていきたいと思つています。田舎の心を分かつてきて、貴重な体験をいっぱいできるようになりました。最初の疑問を克服して、私は以前より成熟な人になつたと感じられます。高知ならではの地域はどこかと聞かれたら、私はぜひ大川村へ行つてみてと返事します。

最後に、大川村の皆さんのおかげでこの忘れられない体験をさせていただき心から感謝を申し上げます。

れませんでした。ついに建物が少しずつ見えはじめ、さらに十分ぐらい進むと自分が住む家に着きました。

着いて次の週末は愛校作業がありました。その日、村の人達と学校の先生と生徒が一緒に校地を掃除したりしました。その日、学校の生徒たちと初めて会いました。人数は少なかつたけど、皆仲良しに見えて笑顔で活動していました。愛校作業をした時、大川村では大川村ならではのコミュニケーション感があることが分かつてきました。その時、まだ慣れていないのにここでいい生活ができるかなと思つていました。

その日から三年以上が経ちました。大川村や高知県民のおかげで忘れられない体験になりました。自然が豊かな村は心が豊かな人を育てると思つています。その三年間の中でいい思い出がいっぱいあるし、そこで仕事をするように決めて本当によかつたと思つていま

ジョシユア・デュラン・カールソン  
一九八五年 アメリカ合衆国カリフォルニア州生まれ。

カリフォルニア大学バークレー校日本文学専攻を卒業。在籍中、仙台市の東北大学に一年間留学。二〇〇八年八月から外語指導助手として大川村教育委員会に三年間勤務。二〇一一年八月から国際交流員として高知市役所総務課・国際平和係に勤務。GENKI青年会主催の土佐弁ミュージカルや学校・地域の国際交流行事に意欲的に参加している。



# 日本語は難しい②

「辞書には三種類ある。一つは紙の辞書。もう一つはデジタル辞書。さて、もう一つは何だろう。」

と、授業の中でよく問いかける。答えは、「頭の中の辞書」だ。

私達は、頭の中に辞書を持っていて、古文や英文を読むときに、この「脳内辞書」を引きながら、訳をしつづける。

この脳内辞書に、調べたい単語が登録されていないときに、紙の辞書（あるいはデジタル辞書）を引くのである。そして引いた内容を脳内辞書へ移す。これが「単語の暗記」だ。

ところが、この「脳内辞書」にかかる負荷が、日本語と英語では異なる。日本語の方が、負荷が大きい。例えば、：

I have a book.

という英文中の単語は、機械的に辞書で引くことができる。それは、単語と単語の間に切れ目が入っているからだ。[I] [have] [a] [book]

というふうには、単語が視覚化されている。ところが、わたしは本を持っている。

は、そうはいかない。例えば、「持っている」と引いても辞書にはない。「持っている」もない。「持つて」もない。

単語と単語の間に切れ目がないために、脳内辞書のセンサーが単語を機械的に識別することができない。ところが、英文も次のように表記するのだろうか。

I have a book.

これは英米人にとってもわかりにくい文だろう。センテンスが長くなると、わかりにくさは劇的に強まる。「辞書引きが困難」という問題は、日本語（特に古文）学習のつまずきの石だと考える。この問題が意識化されていないことが問題なのである。

つまずく生徒は、原因を自分の能力に求めて自信を失う。

「辞書引き困難」の原因はもう一つある。わたしは本を持っていました。この文を、正確に単語に区切ることでできたとする。（これだけでも難事業だが。）

わたしは本／を／持つて／いまし／た。

これで機械的な辞書引きが可能になるだろうか。ならないのである。文中の「持つ」「いまし」は、辞書を引いても出てこない。なぜだろう。「活用」しているからだ。そこで今回は、「活用と辞書引き」の関係を整理したい。

「活用」は、生徒泣かせの概念だ。私自身、中高時代に「活用」が理解できず、煩悶した。

「活用」が単語の語形変化であること、そして「活用」の仕方に一定の規則性があることまではわかる。だがそう聞いても、何がわからないかがわからないくらい、もやもやとした疑問が残った。

そのため、「活用」概念を習ってからすぐ教えられる「動詞の活用」を理解することができなかった。

今なら当時の「もやもや」を言語化することができる。「もやもや」は、三つの疑問に収斂する。三つは

う単純な説明だ。

もちろん、「活用」を理解する意味は、「辞書引き」につづるものではない。しかし複雑高度な理由はあとにまわしてよいのではなからうか。

第二の疑問である。

これも「辞書引き」に関係する。辞書にはなぜ、全活用形を載せていないのか。未然形から命令形まで、全ての活用形が辞書に載っていれば、英語のように機械的に辞書を引くことができるのではないか。先ほどの例で言えば、「持つ」「まし」「い」も引ける。私が生徒時代に、最もひつかかったのは、この点だった。（その疑問を言語化できなかったが。）

T「活用語（活用する単語）は語形変化をしているから機械的に辞書が引けない。としたら、辞書に、未然形から命令形まで全ての活用形を載せたらどうだろう。そしたら機械的に辞書が引ける。これは親切な辞書だろう。子供にも外国人にも喜ばれるんじゃないか。活用表を覚える必要性も半減するだろう。では、どうして全活用形を載せた辞書は売られていないんだろう？」

こう問いかけると、生徒たちは一瞬意表をつかれたような顔をしてから、「そうか！」といった表情になる。私がかつて意識化できなかった

「もやもや」を今の生徒たちもやはり同じように感じているのだと実感する瞬間だ。

この問いへの答えは自然に出る。P「辞書がぶ厚くなり過ぎるんじゃないですか。」（Pは生徒である。）

T「そのとおり。」  
続けてこう問いかける。

T「では、一体辞書はどのくらい厚くなるのだろうか？」  
P「…六倍くらい。」

T「どうして？」  
P「活用形は、未然形から命令形まで六つあるから。」

T「でも、全部の単語が活用するわけじゃないよ。活用するのは、活用語だけだ。だったらどうなる？ 活用語が、辞書に登録されている全単語数の何割を占めているかがポイントだね。」

この問題は生徒たちの好奇心を刺激する。紙数の関係で省略するが、辞書がぶ厚く使いくくなることは間違いない。価格も上がるだろう。

T「これで、活用表の実用的な価値がわかるね。活用表を覚えると、ぶ厚い辞書を買ってしまう。」

こういう単純な「納得」を生徒たちは求めている。すくなくとも生徒時代の私が求めていたのは、こういう納得だった。

最後の疑問である。

未然形から命令形まで、活用形は六つある。これを全部辞書に載せると辞書がぶ厚くなりすぎる。そこで、六つある活用形の中から一つを選んで辞書に載せる。すると辞書がスリムになる。ここまではわかる。だとしても、なぜ辞書に載るのは「終止形」なのか？

「単語の未然形だけを載せた辞書」や「連用形だけを載せた辞書」も理論的にはありえる。

これも生徒だったとき、もやもやと頭を悩ませた疑問である。自明のことのように終止形だけを載せている辞書には納得がいかなかった。

この問題も、意識化すると答えが出る。  
P「終止形が一番わかりやすいからだと思います。」

T「わかりやすいという？」  
P「たとえば、『歩いた。』の『歩い』の未然形は何だろうって思っても、すぐには思い浮かびません。だから『未然形だけ載せている辞書』は引きにくいと思います。でも終止形だったら、言い切りだから、『歩く』とすぐ見つけられます。だから、辞書には終止形を載せているんじゃないですか。」

T「そのとおり。単語の終止形は、

全て「辞書引き」の問題とかかわっている。

これらの疑問を発問化して、生徒たちにつけてみた。すると、強い反応があった。今の生徒たちもかつての私が感じたのと同じ疑問を、潜在的に抱いているのだと確信した。

第一の疑問である。

T「活用表を理解したり、覚えたりするのは何のためだろう。たとえば、上段活用の活用表を覚えることは、日本語を理解する上でどういう役に立つのだろうか？」（Tは教師である。）  
この発問に多くの生徒はうまく答えられない。理由を考えずに、まる暗記するものと割り切っている生徒が多いからだ。しかし、この問いかけに関心は集まる。

私は次のように説明している。  
T「活用表を覚える最大の理由は、辞書を引くためだ。日本語の単語の多くは使われるときに語形を変化させる。だから英語のように機械的に辞書が引けない。活用表を覚えておけば、どんなに語形が変化しても、辞書を引き、意味を調べることができる。活用表には、語形変化の全てのパターンがまとめられている。」

こう言う生徒たちは納得した顔をする。文法を学び始めたばかりの生徒たちが求めているのは、こういう

句点に続けることで、機械的に見つけることができる。だから、みんなの「脳内辞書」に登録されている単語も「終止形」だろう。みんなの中で、自分の「脳内辞書」は、単語が全て未然形で登録されているとか、連用形で登録されているとかいう人いるかい？」  
こう問うと、どの生徒も首を横にふる。

「単語を見つけて辞書を引く。」という単純なことが、日本語の場合単純にできない。これが日本語の難しさだ。とすれば、この難しさを意識化することが大切ではないだろうか。中高生の使う文法の教科書には、多種多様な活用表が羅列されているところが、「日本語の単語が切れ目なくつながっている」ことも「活用形と辞書引きの関係」も一言も触れられていない。

文法の教科書こそ、日本語を難しくしている要因の一つではないかと疑いたくなるしだいである。

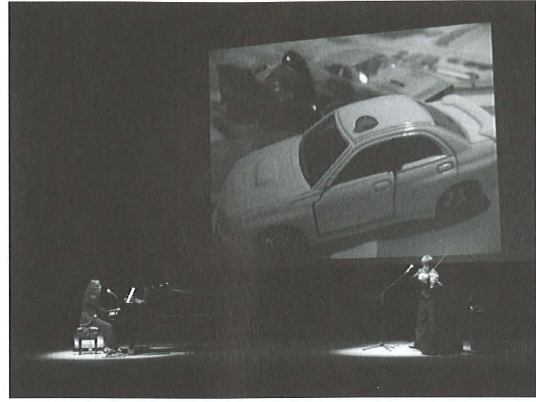
ひろい まもる

一九五四年 高知市生まれ  
早稲田大学第一文学部日本文学科卒業後、私立土佐中高等学校に勤務。国語の教師。

がたつぷり。パトカーや救急車のサイレン、FAXの送受信音などが鳴ると子どもたちは大喜び、一方、火曜サスペンス劇場をパロディーにした「ドナウ川のさざなみ殺人事件」などに大人は「ブラボー」の声。地元のCM曲（いっかだようかん、中村名物：）や土佐電気鉄道の画像など、地元になんだパロディーも随所に織り交ぜ、会場には終始笑い声や拍手が起っていました。

終演後、杉ちゃんが、「高知のお客さんはノリがいいですね」と満足顔。演者・お客さん共に、満足した楽しい一日となりました。

（入場者数五百八十名。アンケート集計数二百十七（大変良かった百六十八・良かった四十九））



二〇一一年十月二十三日（日）かるぼりと大ホールで、クラシックをおもしろおかしく見せる二人組、杉ちゃん&鉄平のリサイタルツアー高知公演が行われました。杉ちゃんがピアノ、鉄平がバイオリンを担当。クラシックスの堅いイメージを取り払うように、駅員の衣装で登場した二人。漫才師のような話口調と映像をふんだんに使った内容で観客を飽きさせない工夫

◆クラシックを遊ぶ音楽実験室

杉ちゃん&鉄平リサイタルツアー2011

～線路は続くよどこまでも～

◆第6回 Concours des Tableaux 企画展

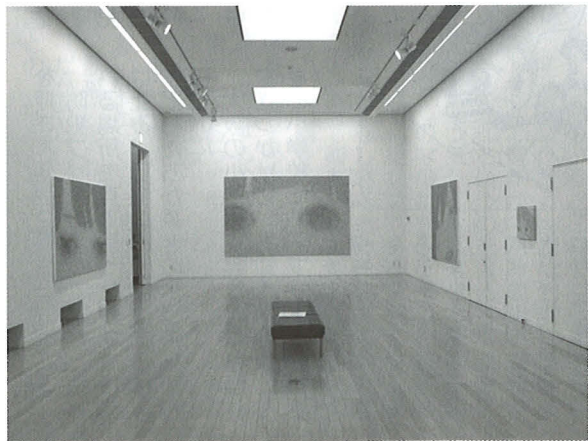
佐竹龍蔵展「他者たちの部屋」

二〇一一年十二月六日（火）から十一日（日）まで市民ギャラリー第五展示室で開催され、同年一月の美術作品コンクールで第4回に続き二度目の最優秀賞を受賞した佐竹龍蔵氏の最新作八点が展示されました。

平筆で点描のように色を重ねる彼の手法は、近づけば近づくと輪郭がぼやけ、逆に遠ざかるほどはつきりと形を成してきます。佐竹氏は「描き手である自らの影響を削り去り人としての純粋な姿を描きたい」と語っていますが、そういった要素を排除した結果、逆に鑑賞者のあいまいな心や思いを写し出すかのようにそれぞれの心に波紋を広げる作品となったのではないのでしょうか。

おおよそ九十mの小さな空間に並べられた作品たちは、閑かな存在感とエネルギーに満ち、訪れた人たちは一瞬にして佐竹氏のそして自分自身の心に広がる別世界へ誘われたようです。

決して天候に恵まれたとはいえない時期にもかかわらず、多数の来場者に恵まれ、多くのひととの交流は作家の今後の活動の励みになったようです。



鎮守の森は今

県内の神社めぐり体験記 (一)



竹内 荘市

世の中が慌ただしく変化する今日、何で神社めぐりなのか。随分のんきだと思われるかも知れません。今から約十三年前、私が還暦を迎えた年に所用で帰郷した。その時、農業の傍ら神職をしている小学校時代の同級生に、久しぶりに会った。

その彼に、小さな神社の小さなお祭りがあるので、見に行きませんかと誘われた。そこは、山一つ越えれば愛媛県という山奥、年々人が減って今では僅か三戸、風前の灯とも言える限界集落だった。道の上の雑木林の一角に小さな神社があった。

どこから来たのか、お年寄りばかり八人が集まり、昼過ぎからお祭りが始まった。約一時間の神職による神事が終わると、全員がお参りをする。その後、餅まきが行われる。当番三人がまいて、五人が拾う。何とも微笑ましい光景であった。餅まきが終わると、神殿内に車座になって、当番が用意した酒肴で直会（宴会）が始まる。昔からやってきたように行うのである。

春先で穏やかな陽射し、ツツジが咲き、ウグイスが鳴いている。高齢化が進んで人は少ない。静かで慎まじやかな時間が流れる。見世物でない、余所行きでない、自分達だけのお祭り、それでいて暗い雰囲気は感

じられない。

これを見て私は、少しオーバーだが、生き方の本質を見た思いがして感動した。それ以来、郷里十和村内の神祭を全部見せて頂こうと思いついた。そして七年間かけて、神仏の別、祭りの大小を問わず、お祭りとも名のつくものは全て見せて頂いた。

七年間、お祭りを見せて頂いて、あることに気付いた。それは、年々お祭りの様子が変わっている。簡素化している。少子高齢化の影響が如実に現れているということである。

当地域の秋祭りには「花取り踊り」を行う所が多い。ところが、その踊子の主役の子供が年々減っている。今では大人も加わって総出で踊るのだが、それでも踊りが出来なくなる所がある。また、お祭りの後で行われる直会が、年々簡素化し止まる所もお神輿や牛鬼の担ぎ手がない所もある。

ところが、変化しているのは祭りばかりではない。鳥居が傾いても、狛犬が倒れても起こせない。神社の側壁が壊れても修理が出来ない。そういう現状が散見される。

限界集落、およびその予備軍が急速に増加している。集落がなくなれば、そこに営々として祀られてきた神社も同じ運命を辿ることになる。

悠久の昔から、そこに住む人々の暮らしと深くかかわってきた神社、鎮守の森が、今やその存続の危機にあるのではないか。現実として、消えた小集落が山間僻地では見かけられる。時には壊れた神社、放置されたままの神社も見られる。

こういった現象は、何も私の郷里だけではない。今や全国的な傾向でもある。それなら今見て記録しておかなければ、今後見られなくなる神社が、それも急速に増えるのではあるまいか。生活文化の一部が廢るのではないか。そんな思いから、この際、県内の神社を出来るだけ多く見とおこうと思いついたのである。

第三の職場をリタイヤし、時間的余裕ができたので、三年ほどかけて全国の峠巡りをしようと、かなり具体的計画を立てていたのを取り止め、神社巡りを始めたのだった。

たけうち そういち

一九三八年 高岡郡四万十町生まれ  
専修大学法学部卒業。高知営林局、  
（特）損害保険料率算出機構高知調査  
事務所（社）日本損害保険協会高知相談センター等に勤務。

# BLACK BOTTOM BRASS BAND!!

ブラック・ボトム・ブラス・バンド

ニューオリンズスタイルをベースにした7人編成のブラスバンド「ブラック・ボトム・ブラス・バンド」が高知初見参！その場を一気に「祭り」にする FUNKY な GROOVE をお楽しみください！

日時：2月18日(土) 13:30 開場 14:00 開演  
会場：高知市文化プラザかるぼーと 大ホール  
料金：一般 1,000円 高校生以下 500円 未就学児入場無料  
お問い合わせ：(財)高知市文化振興事業団 088-883-5071

## 文化高知

定期購読のご案内  
賛助会員募集中!!



賛助会費  
2,000円  
(年額)

財団法人 高知市文化振興事業団の  
機関誌「文化高知」を  
年6回お手元に。

お申し込みは・・・  
事業団にお電話でどうぞ。  
次号に郵便振替の用紙を  
同封してお届けいたします。

お申し込み・お問い合わせ  
(財)高知市文化振興事業団  
Tel 088-883-5071  
毎週月曜休業(祝休日は除く)

### 今号の表紙

「夢中の奇跡」 三田 健一朗

現実には有り得ない光景を生み出したかった、というのが第一にありました。丸い虹は本当に存在するのですが…。恐らく認知されていない下の青い太陽が私のお気に入りです。  
青空に浮かぶ虹や雲、ここまでは全て現実に存在するので、存在しないものが一つ欲しいなと思って生まれたのが、この青い太陽なんです。  
(みた けんいちろう/  
国際デザイン・ビューティカレッジ1年生)

### 風伯

#### 順人逆仙

逆らって、何かに打ち込んでより上手くなるうと努力するのは、「順」に逆らって生きることで、それが人であることの特権ではないかというのである。誕生し、幼年を迎え、青年期を過ぎ、中年から老年に入っていく、こうした人の自然の摂理や体力の衰えに抗いようもないが、知恵を働かせることが必要なのだと言へ。

これは、自然に従って老いていくだけであればただの「人」であり、老いに逆らうことによって仙人の域に入れるという意味である。つまり、ただ老いるだけでは「禽獣」「野猿」と異ならないというのだ。  
老いて物忘れがひどくなっても外国語などを覚えようとしていたり、体力の衰えに

この言葉はもともと「道家の密語」に出てくるようで、幸田露伴の「努力論」で紹介されている。これをたとえれば渡部昇一は「逆順人仙」と紹介しているため、ネットなどで露伴が「逆順人仙」と紹介しているなどというのを目にする、オイオイという気分になる。まあ意味は似たようなものなのだが……。  
ところで「徒然草」百十三段には、老人の「見ゆるしきこと」として「わかき人にまじりて興あらむと物いひたる」とある。いい歳をして若者に混じり若者の興味を引きそうなことをしゃべったり、若ふたりするのは確かに見苦しい。  
老いに逆らって生きることで、この老人の「見苦しき」この間に、どう折り合いをつければいいのか。若い人には折り合いなどピンとこないかも知れないが、この誘惑の多い世の中で、老いさらばえず、だからといって若かりもせず生きるこのこと、なんと悩ましいことか。(森)



### 高知を撮る

第27回写真コンテスト入賞作品

### 旧高知駅界限

(平成15年11月 高知市旧栄田町)

近藤 輝代彦

旧高知駅裏に市内から集められた放置自転車の置き場があった。その台数が数千台? この場所にやがて、高知駅周辺等の都市計画で新高知駅が出来、この置き場も「バスターミナル」等になった。

大河ドラマが、その日のクライマックスを迎えようとしていたその時、自宅マンションの下で防犯ブザーがけたたましく鳴った。「お母さん、早う!」娘の声に促され、家の中にある防具を慌てて探す。何もないので仕方なく布団タタキを持ち、小心者の息子に目配せをした。いざ出陣!とばかり急いで靴を履いたが、お供の二人はついてきてない!「先鋒も中堅もいなくて、大将だけか!」と、嘆く私の背後から、「お母さん、携帯も持つてこい!」と、パジャマの娘が電話を持って走って来た。やっぱりパトロールに行くのは大将だけだった。  
携帯をポケットに押し込み、ふとんたたきを中段に構えて二振り。剣道は全くの素人だが、とりあえず気合と奇声で闘うしかない。「暗闇で、女性の上にも男が馬乗りになっていたらどうしよう。ふとんたたきのヘリで叩くしかないんだろうな。私が反対に襲われたりして。いや、それはない!」冗談ではなく、高鳴る胸

### その時



#### 風俗歳時記

「地域での助け合い」。古臭いフレーズかも知れないが、災害、教育、犯罪、いろんな意味で地域力が求められている。いざという「その時」には、遠くの親戚より近くの他人として頼りになりたい。  
(立花香)

を押さえながら現場に向かった。防犯ブザーの鳴っていたと思われる場所を見て回ったがすでに音は止み、自宅のベランダからは、子どもたちが観客のように見下ろしていた。  
大阪の小学校で起きた殺傷事件をきっかけに、高知市内のほとんどの小学校で防犯ブザーが配布された時期があった。保護者も地域の人も皆で子どもを守るうという機運が高まり、私もその一人として地域のパトロールによく出かけていた。あれから十年。すでに、事件を起こした犯人はこの世からいなくなり、あの凄惨な事件も人々の記憶から忘れ去られた。それを証に、ブザーが鳴っても誰もど



### 【対象】

次の事項をみたすもの。

- 1) 高知県内に在住する者の学術的著述、または、県外在住者で高知県に関する事項をテーマにした学術的著述。
- 2) 2011年(平成23年)1月1日から12月31日まで(奥付の日付による)に発行された単行本。

### 【推薦】

自薦・他薦を問いません。  
 必要事項を所定の推薦書に記入し、該当図書3部を添えて審査委員会へ提出して下さい。  
 (図書は、申し出により審査後に2部まで返却します。)  
 受付締切 1月31日(火)

### 【表彰】

3点以内とし、それぞれの著者または編者に賞状と賞金10万円を贈ります。  
 要綱・推薦書をご希望の方にはお送りします。

### 【推薦・お問い合わせ】

(財)高知市文化振興事業団 内  
 高知出版学術賞審査委員会 〒780-8529 高知市九反田2-1  
 電話 088-883-5071 e-mail kikaku@kfca.jp

優れた学術研究の振興は、文化や出版の向上のみならず、広く高知県の発展に貢献します。「高知出版学術賞」は、当該年における最も優れた学術出版を顕彰することによって、学術研究の振興を図ることを目的としています。該当図書について、皆様のご推薦をお待ちします。

## 第22回

# 高知出版学術賞

### 推薦募集



第27回「I LOVE 高知部門」準特選  
 草紅葉 芝崎静雄

## 第28回

# 写真コンテスト

# 高知を撮る

どなたでも、一人何点でも応募できます。出品料無料

応募締切  
**1月31日(火)**  
 発表 3月上旬

過去から現在に至る高知県内の出来事や風景、人々の暮らしを記録し、郷土の様々な表情を伝えるとともに、未来の高知のあるべき姿を考えていこうというものです。優れた作品は、入選作品展にてたくさんの方にご覧いただけます。

## テーマ

### ●記録写真部門

- 記録性を持った高知県に関する写真
- ①平成の部 (平成時代に撮影されたもの)
  - ②昭和以前の部 (昭和以前に撮影されたもの)

### ●I LOVE 高知部門

好きな高知の風景・風俗等を表現した写真  
 (1年以内に撮影)

### 応募先

- 高知市内各カメラ店
- (財)高知市文化振興事業団 (月曜休館。祝日の場合は開館)  
 〒780-8529 高知市九反田2-1  
 電話 088-883-5071

### 賞

- 特選 2点(賞状・賞金3万円)  
 準特選 10点以内(賞状・賞金1万円)  
 (各部門とも)

※今回「記録写真部門」について、新たに【平成の部】と【昭和以前の部】を設けました。これにより応募作品は2部に分けて審査が行われます。

### 入選作品展

平成24年3月20日(火)~25日(日)  
 高知市文化プラザ 市民ギャラリー

- カラー・モノクロともにワイド四ツ切サイズ(254mm×365mm)以上
  - 組写真は3枚までで、写真の順番と組写真であることを明記して下さい。
  - 両部門ともパネル貼りは不要です。
- 詳しい応募要領は高知市文化振興事業団までお問い合わせ下さい。



第27回「記録写真部門」特選  
 大杉の記憶 上田雅雄

### 作品募集